

各位

## 遠鉄グループ2017年度決算及び新中期経営計画 ならびに遠鉄グループの人事異動等について

### 1. 遠鉄グループ2017年度決算について（別紙のとおり）

- (1) 遠鉄グループセグメント別(事業別)の概況
- (2) 業績推移(連結決算・セグメント別売上高)
- (3) 遠鉄グループ各社の主な事業内容

### 2. 遠鉄グループ新中期経営計画策定について(別紙のとおり)

- (1) 遠鉄グループをとりまく環境
- (2) 新3カ年中期経営計画「サバイブ2020」
- (3) 「サバイブ2020」重点政策
- (4) 業績目標(連結決算・セグメント別売上高)

### 3. 遠鉄グループの人事異動について（別紙のとおり）

- (1) 遠州鉄道株式会社の役員人事(2018年6月28日付)
- (2) 遠州鉄道株式会社の管理職人事(2018年6月1日付)
- (3) 遠鉄グループ各社の常勤役員の人事(2018年5月31日、6月15日・28日付)

## 1. 遠鉄グループ 2017 年度決算について

当連結会計年度におけるわが国経済は、海外経済の緩やかな成長を背景に、輸出や生産の持ち直しが続くとともに、個人消費や民間設備投資も併せて持ち直すなど民需が改善し、景気回復基調で推移いたしました。また、当社グループが営業基盤とする静岡県西部地域においては、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」の放映により多くの観光客が訪れ、ホテル・旅館業にとって業績回復の追い風となった一方、その他の多くのサービス業にとっては未だ景気回復の実感が乏しい状況が続きました。

このような状況の中、当社グループは3ヵ年中期経営計画「シャイン2017」の最終年度として、介護付有料老人ホームの開設や、保険代理業における営業所の開設など、積極的な事業展開を進めてまいりました。

当連結会計年度の業績につきましては、営業収益1,784億8千9百万円(前連結会計年度比0.1%増加)、経常利益47億2千9百万円(前連結会計年度比26.1%増加)、親会社株主に帰属する当期純利益は21億2千8百万円(前連結会計年度比8.4%減少)となりました。

なお、事業セグメントの見直しにともない、当連結会計年度より「商品販売事業」のセグメントを、「リテールサービス事業」と「モビリティサービス事業」に区分して記載しております。

### (1) 遠鉄グループセグメント別(事業別)の概況

#### ① 運輸事業(鉄道事業・バス事業・タクシー事業など)

鉄道事業におきましては、新造車両を導入するとともに、浜北駅のホームを改修しバリアフリー化するなど利便性向上を図りました。また、小林駅周辺の駐車場・駐輪場整備を進め、パーク&ライドおよびサイクル&ライドを促進した結果、年間の利用人数が49年ぶりに1,000万人を超えました。

乗合バス事業におきましては、運賃表示機を視認性の高い液晶ディスプレイに更新するなど、お客様の利便性向上を図りました。自動車整備業におきましては、昨年11月に磐田整備工場を拡張し、中東遠地域における大型車両を保有する法人顧客の獲得に努めました。

タクシー事業におきましては、高齢者や障がい者の方も利用しやすいユニバーサルデザインのジャパンタクシーを導入し、お客様の利便性向上を図りました。

以上の結果、様々な取り組みをしましてまいりましたが、運輸事業の営業収益は、155億5千6百万円(前連結会計年度比0.6%減少)となりました。

#### ② レジャーサービス事業(旅行業、ホテル・旅館業など)

旅行業におきましては、バンビツアーでは、県内外の多くのお客様に「直虎ゆかりの地めぐり」をご利用いただき、観光地としての魅力発信と収益の拡大に努めました。遠鉄トラベルでは、昨年6月に乗合バス事業の「磐田駅前案内所」を引継ぎ「磐田駅前店」を開設するとともに、各店舗発着のバンビツアーを企画販売し、収益の拡大に努めました。

ホテル・旅館業におきましては、遠鉄観光開発では、昨年4月にホテルコンコルド浜松を吸収合併し、営業部門におけるシナジーの創出と間接部門における業務の効率化に努めました。ホテル九重では、創業30周年を記念し、会席料理をリニューアルするなど顧客獲得に努めました。浜名湖パルパルでは、「ボンジョールノのくるくるクルーズ」と「マスケラーナの4Dシアター」を新たに導入し、遊園地の魅力向上を図りました。

以上の結果、レジャーサービス事業の営業収益は、102億5千万円(前連結会計年度比0.8%増加)となりました。

③ リテールサービス事業(百貨店業、食品スーパー業)

百貨店業におきましては、遠鉄百貨店では本年2月に地下食品売り場をリニューアルし、精肉・鮮魚のコーナーを充実させ、売場の魅力向上を図りました。また、サービスエリア物品販売業の「遠鉄マルシェ」を、昨年6月に遠州鉄道から遠鉄百貨店へ移管いたしました。

食品スーパー業におきましては、遠鉄ストアでは、昨年4月に「新橋店」を移転建替するとともに、昨年10月に「鴨江店」を「ウェル鴨江店」としてリニューアルオープンし、収益の拡大に努めました。

以上の結果、様々な取り組みをしてまいりましたが、リテールサービス事業の営業収益は、906億円(前連結会計年度比 1.7%減少)となりました。

④ モビリティサービス事業(自動車販売業、石油製品販売業)

自動車販売業におきましては、ネットヨタ浜松では、昨年10月に藤枝東店をリニューアルし、お客様がくつろいで商談できる環境を整備いたしました。トヨタレンタリース浜松では、昨年12月に「元城店」をリニューアルし、より親しみやすい店舗づくりとサービスの向上を図りました。

石油製品販売業におきましては、遠鉄石油では、県西部地域の製造業を中心に工業用燃料や潤滑油等の販売に注力し、法人顧客への営業を強化いたしました。

以上の結果、様々な取り組みをしてまいりましたが、モビリティサービス事業の営業収益は、323億円(前連結会計年度比 0.9%減少)となりました。

⑤ 不動産事業(不動産業、建設工事業)

不動産業におきましては、磐田市見付元宮の分譲地を販売開始するなど、分譲住宅83棟、分譲土地91区画をお引渡しいたしました。注文住宅では、中区早出町に規格型注文住宅のモデルハウスを建築するなど顧客の獲得に努め、112棟を受注し、116棟をお引渡しいたしました。不動産仲介業では、昨年7月に「鴨江不動産営業所」を「広沢不動産プラザ」として中区広沢に移転開設するとともに、同年8月に「不動産情報プラザ」を閉鎖して「浜松不動産営業所」に業務統合いたしました。また本年1月には、浜北区貴布祢に「浜北不動産営業所」を新規開設するなど、営業拠点の再編と顧客獲得に努めました。分譲マンションでは、「ブライトタウン貴布祢」の販売が順調に推移し、「ブライトタウン大蒲」と併せて72戸をお引渡しするとともに、昨年11月に「ブライトタウン小池」の販売を開始いたしました。

建設工事業におきましては、遠鉄建設では、太陽光発電事業で新たに3カ所、発電規模計1,900kwの太陽光発電所を建設し、売電を開始いたしました。

以上の結果、不動産事業の営業収益は、155億2千4百万円(前連結会計年度比 6.5%増加)となりました。

⑥ その他の事業(保険代理業、介護事業、自動車運転教習業、情報サービス業、ビル管理業、業務請負業など)

保険代理業におきましては、昨年5月に「三島営業所」を開設し、営業エリアの拡大に努めました。

介護事業におきましては、昨年4月に介護付有料老人ホーム「ラクラス見付レジデンス」を新規オープンするとともに、本年4月開業の「ラクラス富塚レジデンス」の開設準備を進めました。

自動車運転教習業におきましては、遠鉄自動車学校浜松校では、準中型自動車免許教習を開始し、教習生の受け入れ拡大に努めました。

業務請負業におきましては、遠鉄アシストでは、昨年6月にバス輸送を行う磐田営業所を開設し、中東遠地域における営業力強化に努めました。また、スポーツクラブ事業「エスポ」を、本年1月に遠州鉄道から遠鉄アシストへ移管いたしました。

以上の結果、その他の事業の営業収益は、142億5千6百万円(前連結会計年度比7.5%増加)となりました。

## (2)業績推移

### ① 連結決算

(単位:百万円)

	2016年度	2017年度 (当期)	2016年度 比	2018年度 (計画)	2017年度 比
営業収益	178,364	178,489	100.1%	177,100	99.2%
営業利益	3,406	4,196	123.2%	3,800	90.6%
経常利益	3,750	4,729	126.1%	4,000	84.6%
当期純利益	2,323	2,128	91.6%	2,600	122.2%

(注)金額は、百万円未満を切り捨て表示しております。

### ② セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2016年度	2017年度 (当期)	2016年度 比	2018年度 (計画)	2017年度 比
運輸事業	15,653	15,556	99.4%	15,400	99.0%
レジャーサービス事業	10,170	10,250	100.8%	9,600	93.7%
リテールサービス事業	92,124	90,600	98.3%	88,700	97.9%
モビリティサービス事業	32,582	32,300	99.1%	32,100	99.4%
不動産事業	14,575	15,524	106.5%	16,600	106.9%
その他の事業	13,258	14,256	107.5%	14,700	103.1%

(注)金額は、百万円未満を切り捨て表示しております。

2018年6月29日に遠州鉄道(株)が全株式を取得予定の静岡トヨタ自動車(株)とその100%子会社である静岡トヨタ物流サービス(株)の業績は含まれておりません。

(3)遠鉄グループ各社の主な事業内容(2018年3月31日現在)

事業区分	事業内容	主要な会社
運輸事業	鉄道事業	遠州鉄道(株)
	一般乗合旅客自動車運送事業	遠州鉄道(株)
	一般貸切旅客自動車運送事業	遠州鉄道(株)
	自動車整備業	遠州鉄道(株)
	一般乗用旅客自動車運送事業	遠鉄タクシー(株)
レジャーサービス事業	旅行業	遠州鉄道(株)、(株)遠鉄トラベル
	ホテル・旅館業、遊園地事業	遠州鉄道(株)、遠鉄観光開発(株)
リテールサービス事業	百貨店業	(株)遠鉄百貨店、(株)遠鉄百貨店友の会
	食品スーパー業	(株)遠鉄ストア
モビリティサービス事業	自動車販売業	ネットトヨタ浜松(株)、(株)トヨタレンタリース浜松
	石油製品販売業	遠鉄石油(株)
不動産事業	不動産業	遠州鉄道(株)
	建設工事業	遠鉄建設(株)
その他の事業	保険代理業	遠州鉄道(株)
	介護事業	遠州鉄道(株)
	自動車運転教習業	(株)遠鉄自動車学校、(株)浜松自動車学校
	情報サービス業	遠鉄システムサービス(株)
	ビル管理業、業務請負業、 健康スポーツ業、食品検査事業	遠鉄アシスト(株)

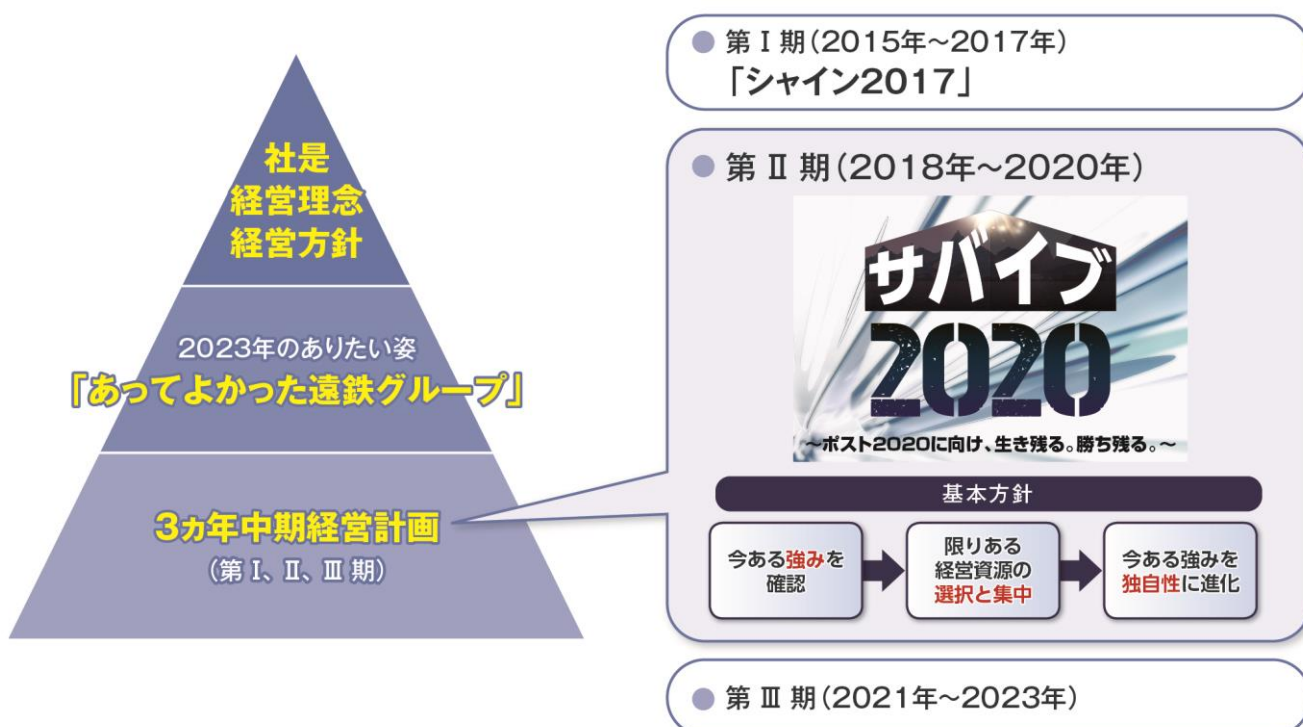
## 2. 遠鉄グループ新中期経営計画策定について

### (1) 遠鉄グループをとりまく環境

国内経済において、東京オリンピック・パラリンピックが終了する2020年以降、地方を中心とした人口減少による市場縮小が顕在化するとともに、AI技術の目覚ましい発展やそれにともなう顧客の価値観の変化により、当社グループにとっても厳しい経営環境を迎えることが予想されます。

### (2) 新3カ年中期経営計画「サバイブ2020」

当社グループは新3カ年中期経営計画「サバイブ2020」を策定し、ポスト2020年に向けて、生き残る、勝ち残る企業グループを目指し、各事業を筋肉質にすることで、加速する経営環境の変化に対応してまいります。



### (3) 「サバイブ2020」重点政策

#### ① なくてはならない商品・サービスへの集中

レジャーサービス事業とリテールサービス事業を中心に、経営資源の選択と集中を推進することで、お客様の価値観の変化や多様化に対応してまいります。

#### ② 間接部門の集約による付加価値の向上

グループ各社の垣根を越えて間接部門を集約することで、固定費を削減し、各事業の損益分岐点を下げることで、市場における競争力の強化に努めてまいります。

#### ③ 強みを独自性に進化させる人材の輩出

人口減少時代の当社グループの舵取り役を担う次世代を育成する為に、社内教育制度の充実を図り、優秀な人材を早期に選抜する体制を整えてまいります。

#### ④ 新たなIT技術による仕組みの構築

IT技術を活用できる人材の育成と環境整備を進めるとともに、AI等の新たな技術を活用することで、従業員がより高付加価値で、創造的な業務に専念できるようバックアップしてまいります。

#### (4)業績目標

##### ① 連結決算

(単位:百万円)

	2017年度	2018年度 (計画)	2019年度 (計画)	2020年度 (計画)	2017年度 比
営業収益	178,489	177,100	178,000	176,400	98.8%
営業利益	4,196	3,800	4,600	5,400	128.7%
経常利益	4,729	4,000	4,800	5,600	118.4%
当期純利益	2,128	2,600	3,100	3,700	173.9%

(注)金額は、百万円未満を切り捨て表示しております。

##### ② セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2017年度	2018年度 (計画)	2019年度 (計画)	2020年度 (計画)	2017年度 比
運輸事業	15,556	15,400	15,400	15,400	99.0%
レジャーサービス事業	10,250	9,600	9,700	9,600	93.7%
リテールサービス事業	90,600	88,700	86,800	85,500	94.4%
モビリティサービス事業	32,300	32,100	32,500	32,900	101.9%
不動産事業	15,524	16,600	18,400	17,300	111.4%
その他の事業	14,256	14,700	15,200	15,700	110.1%

(注)金額は、百万円未満を切り捨て表示しております。

2018年6月29日に遠州鉄道(株)が全株式を取得予定の静岡トヨタ自動車(株)とその100%子会社である静岡トヨタ物流サービス(株)の業績は含まれておりません。

### 3. 遠鉄グループの人事異動について

#### ◆遠州鉄道株式会社 役員(6月28日付)

新職	旧職	氏名
遠州鉄道(株) 常務取締役 兼 ネットヨタ浜松(株) 代表取締役社長 兼 遠鉄石油(株) 代表取締役社長【新任】	遠州鉄道(株) 常務取締役 兼 ネットヨタ浜松(株) 代表取締役社長	太田 勝之
遠州鉄道(株) 常務取締役【昇任】 兼 (株)遠鉄ストア 代表取締役社長【新任】	遠州鉄道(株) 取締役運輸事業本部長 兼 (株)遠鉄トラベル 代表取締役社長	宮田 洋
遠州鉄道(株) 取締役不動産事業本部長 兼 住宅事業部長	遠州鉄道(株) 取締役不動産事業本部長	石原 誠
遠州鉄道(株) 取締役 兼 静岡トヨタ自動車(株) 常勤監査役【新任】	遠州鉄道(株) 取締役 兼 遠鉄建設(株) 代表取締役社長	鈴木 憲之
遠州鉄道(株) 取締役運輸事業本部長【新任】 兼 運輸業務部長 兼 (株)遠鉄トラベル 代表取締役社長【新任】	遠州鉄道(株) 人事部長	小野田 剛久

※遠州鉄道役員、遠鉄ストア、遠鉄トラベルは6月28日付、遠州鉄道使用人、遠鉄石油は6月1日付、  
静岡トヨタ自動車は6月15日付

#### ◆遠州鉄道株式会社 任期満了に伴う役員の退任(6月28日付)

旧職	氏名
遠州鉄道(株) 取締役 兼 (株)遠鉄ストア 代表取締役社長	桑原 俊明

#### ◆遠州鉄道株式会社 管理職(6月1日付)

新職	旧職	氏名
人事部長	住宅事業部長	高林 宏明
不動産事業部長	運輸業務部長	米田 典弘
人事部次長 兼 人事政策課長【昇格】	流通事業プロジェクトリーダー(課長待遇)	石田 博久
不動産事業部次長 兼 不動産業務課長	住宅事業部次長 兼 住宅企画課長	鈴木 尋之
住宅事業部次長 兼 住宅企画課長	不動産事業部次長 兼 不動産業務課長	大石 成善
(出向)遠鉄建設(株) 総務部長	(出向)遠鉄石油(株) 総務部長	鈴木 重樹
介護事業部介護事業推進課長	保険営業部生命保険営業4課長	鈴木 洋志
運輸事業本部三方原営業所長	運輸事業本部雄踏営業所長	菅沼 澄則
運輸事業本部雄踏営業所長	運輸事業本部三方原営業所長	小池 典弘
不動産事業部開発課長	不動産事業部高台不動産営業所長	高橋 芳範
不動産事業部磐田不動産営業所長	介護事業部介護事業推進課長	井上 貴之
不動産事業部高台不動産営業所長	不動産事業部磐田不動産営業所長	田邊 京司
住宅事業部リフォーム課長	不動産事業部開発課長	山内 友博
保険営業部生命保険営業4課長	人事部人事政策課長	伊藤 進
保険営業部生命保険営業7課長	(出向)(株)遠鉄自動車学校 業務部長	佐藤 友
(出向)遠鉄石油(株) 総務部長	住宅事業部リフォーム課長	山下 征則
総務部経理課長【昇格】	総務部経理課副課長	萩原 高志



◆遠鉄グループ 常勤役員(5月31日、6月15日・28日付)

新職	旧職	氏名
遠鉄建設(株) 代表取締役社長【新任】	遠州鉄道(株) 不動産事業部長	平野 昌利
(株)遠鉄百貨店 専務取締役営業本部長【昇任】	(株)遠鉄百貨店 常務取締役営業本部長	小室 克彦
(株)遠鉄百貨店 取締役営業部長【新任】	(株)遠鉄百貨店 営業部長	中村 真人
(株)遠鉄ストア 取締役 プロセスセンタープロジェクトリーダー【新任】	(株)遠鉄ストア プロセスセンタープロジェクトリーダー	遠藤 正樹
(株)トヨタレンタリース浜松 取締役営業本部長【新任】	ネットトヨタ浜松(株) バリューチェーン部長	辻村 雅也
(株)トヨタレンタリース浜松 取締役リース事業部長【新任】	(株)トヨタレンタリース浜松 レンタル事業部長	小林 孝市
遠鉄システムサービス(株) 取締役 公共システム部長【新任】	遠鉄システムサービス(株) 公共システム部長	島 康人
(株)遠鉄自動車学校 取締役業務部長【新任】 兼 (株)浜松自動車学校 取締役【新任】	(株)トヨタレンタリース浜松 取締役営業本部長	鈴木 利昭

※遠鉄百貨店は5月31日付、遠鉄建設は6月15日付、その他の会社は6月28日付

◆遠鉄グループ 任期满了による常勤役員の退任(6月1日・28日付)

旧職	氏名
遠鉄石油(株) 代表取締役社長	高橋 弘之
(株)遠鉄ストア 専務取締役営業本部長	竹内 重幸

※遠鉄石油は6月1日付、遠鉄ストアは6月28日付